

# 校長室から 第21号

## 本校の開校はいつなのか？ ～その4～

「学校の歴史を語る座談会」、二 学校創立当時の状況、の続きです

政井 先生は縞の着物で股引兵子帯といふ姿だったそうですね。生徒の食物などはどうでしたか。

川勝 四十一年が丁度大飢饉でして大月二十日晚霜の影響だったのです全く弱りました。生徒等は辨当のかはりに馬鈴薯のゆでたのを二つ程持って行くのです。勿論先生も麦飯です。家庭で来客等があった時出す上等の御菓子も麦の焙ったものです酒などは盆か正月でなければ顔を見られませんでした。

酒井 その上四十二年の大火で全く弱り目にたたり目です。四十日も雨が降らないのですから数箇月燃え續けました。松葉の燃える音、竹の破れる音、まあこの世の地獄でせう。それに皆が家が焼けるとこまるから迎え火をやるから益々拡大してしまいひました。私たちは食料種子等は皆んな土の中に埋めて只見て居るばかりでした。

四十一年の飢饉と四十二年の大山火は草分当時の苦難の最大なものです。

(附記) 明治四十二年五月二日大山火見舞いのため日根野侍従御通過遊ばさる

3つのことが判りました。1つ目は、本校は上興部第一教育所として明治41年に開校したこと、2つ目は、学校の沿革誌では開校は明治42年1月となっていること、3つ目は沿革誌が村上校長時代に初めて作られたことです。

はじめに、村上校長についてふれます。その後本校の沿革誌について記述していきます。

村上久吉氏は1923(大正12)年2月12日から1926(大正15)年4月14日まで3年2ヶ月あまり、本校の第3代校長として在職していました。『學報』によると開校25周年記念事業の一環として1934(昭和9)年11月10日「元当校々長現旭川中学校教諭村上久吉先生の精神作興講演会あり」とあります。この日には、政井三郎氏と村上久吉氏が直接会って話をしているはずで、ここで、村上氏が沿革誌をさかのぼって作ったことについて、話題になったのかも知れません。

さて、村上氏についての興味深い資料を見つけたので、ここで紹介します。

### 西興部時代

### 村上久吉

(昭和39年1月1日発行豊詐85号「私の小学校勤務(下)」より)

結婚して二年半、大正十二年一月末に支庁視学によばれる。

「問題の学校がある。校長が部落と合わずついに発狂してナタで教室の窓全部をたたき割る。生徒はおそれて窓をあけ放ち、いつでも逃げ出せるようにかまえている。ついて教育勅語まで紛失して警察や検事局の調査となったが、今なお内偵中だ。校長は去年一学期中で已に退職になったが、部落が校長をいじめるなら後任校長をやらぬ、廃校にするとおどしておいて今にそのままにしているのだが、三月の卒業式もせまり、部落でいよいよ騒ぎ出したのだ。支庁でも卒業式はあげられるようにしてやらねばならぬ。目下四学級。校長は居らず、一人は入院、一人は欠員、残る一人は十八才の青年だ、ここ半年の間何をしているか分らぬ。付属単級が二つもあるのだが、君、一つ行って整理してくれぬか」 ～つづく～



第3代  
村上久吉